

NUBIC知的財産情報開示

開示日： 2012年10月20日

各位

NUBIC知的財産情報の要約をお届けいたします。
尚、NUBICベンチャークラブ特別会員、一般会員にはすでにお知らせしています。

	NUBIC管理番号: <input type="text" value="2011000015"/>	整理番号 <input type="text" value="11608"/>	担当者 <input type="text" value="渡辺 麻裕"/>
表 題	<input type="text" value="悪性腫瘍に対する抗選択的細胞毒性を有するインディルビン誘導体"/>		
技術分野	<input type="text" value="化学・薬品"/>	<input type="text" value="食品・バイオ"/>	<input type="text"/>
適用製品	<input type="text" value="医薬品(抗腫瘍薬)"/>		
目 的	<input type="text" value="悪性腫瘍(がん)で死亡する人はすでに年間30万人を超えている。特に悪性度の高いがんは、外科的療法、放射線療法、抗腫瘍薬による化学療法が行なわれているにも関わらず、予後の改善が良いとはいえない。そこで新たにこの予後不良な悪性腫瘍に対して正常細胞には傷害を示さず(有害作用の少ない)、腫瘍特異的に作用する抗腫瘍薬を提供する。"/>		
技術概要	<input type="text" value="インディルビンのがん細胞への作用は癌治療の標的タンパク質の1つと考えられている細胞周期や細胞分化に関与するいくつかのチロシンキナーゼを介して行われることが知られている。そこで、このインディルビンに着目して種々の誘導体を合成し、そのがん細胞(特に小児がんの中でも予後が不良な神経芽腫の細胞を用いて)に対する細胞傷害作用について検討した。インディルビンの3位をオキシム化し、さらにここにエポキシ基を導入したところ、強い抗腫瘍効果が知られているシスプラチンよりも低濃度で強力な細胞傷害活性を持ち、その活性はアポトーシスに基づくものであることがわかった。さらに、この化合物は正常細胞と比較してその活性の腫瘍選択性も認められた。以上のことから、予後不良ながん治療におけるより副作用の少ない効果的な治療薬になる可能性があることと、神経系の悪性腫瘍(脳腫瘍など)に対しても治療薬として応用できる可能性がある。"/>		

技術移転等をご希望の場合は、下記事項をご記入の上、本用紙にてお申込みください。

(FAX, e-mail, 郵送いづれでも可。)

各担当コーディネーターからご連絡を差し上げます。

面談希望日時	<input type="text"/>		
(ふりがな) 氏 名	<input type="text"/>		
会社名	<input type="text"/>		
所 属	<input type="text"/>	役職	<input type="text"/>
電話番号	<input type="text"/>	FAX番号	<input type="text"/>
E-mail	<input type="text"/>		
連絡事項	<input type="text"/>		



【申込み・問い合わせ先】

日本大学産官学連携知財センター(NUBIC)

〒102-8275 東京都千代田区九段南4-8-24 日本大学会館

TEL:03-5275-8139 FAX:03-5275-8328 E-mail:nubic@nihon-u.ac.jp